ＳＲＡ―ＪＡＰＡＮ　ニュースレター

Volume 3, Number 2.　　August, 1990

発　行：　日本リスク研究学会(The Society for Risk Analysis: Japan-Section)
会　長：　横山　栄二
事務局：　〒305 つくば市天王台 1-1-1
筑波大学社会工学系　池田研究室気付　　発行責任者・事務局担当理事
TEL. 0298(53)5380　FAX. (55)3849　　池田　三郎

--- 目　次 ---

1。第３回研究発表会のプログラムと講演発表の募集
2。年次総会報告と第２期役員一覧
3。第５回理事会報告
4。春季講演シンポジュムの報告
5。学会誌第２号の内容
6。事務局だより
- リスク関連学会・会議のお知らせ
- ＳＲＡニュース
- その他
7。新会員紹介

1。第３回研究発表会のプログラムと講演発表の募集

日本リスク研究学会の第３回研究発表会の日程と講演発表募集は前回のNewsLetter3-1でお知らせしましが、このたび、下記のようなプログラムと日程が決まりました。今回の学会は１１月３０日と１２月１日の２日間の日程を組みましたので奮ってご参加下さい。

特別講演として（社）日本化学物質安全情報センターの大島輝夫氏による「化学物質のリスク管理の国際動向」を、３つの企画セッションでは多彩な講演・レビュウーの発表を予定しています。週日の金曜日もありますので、民間企業の会員の方々のご発表を特に期待しています。会員の内外を問わず、リスク研究に関するアイデアや視点、実施例についての意見交換や技法開発の試みのご発表を歓迎いたします。

(1) 日時：１９９０年１１月３０日（金）　10:00 - 17:00
１２月　１日（土）　10:00 - 14:45

(2) 場所：国立公衆衛生院（東京都港区白金台4-6-1：山の手線目黒駅下車徒歩10分）

(3) プログラム

11月30日(金) 10:00 - 12:30 一般セッション　(リスク評価・管理)
13:30 - 15:30 企画セッション1 (事前対応型リスク管理)
15:45 - 17:00 特別講演　化学物質のリスク管理の国際動向
(社)日本化学物質安全情報センター　大島　輝夫　氏
17:10 -　懇親会

12月 1日(土) 10:00 - 12:00 企画セッション2 (リスクアセスメントと基礎科学の接点)
13:00 - 14:45 企画セッション3 (製造物責任リスクの分散)

(4) 研究発表は一般セッションと3つの企画セッション(レビュー講演と一般発表からなる)とします。研究発表のテーマとしては、リスク研究に関するものであれば、特に分野を問いませんが、各セッション共に関連する事例研究などは歓迎します。研究発表は 1人20分程度、討議10分程度を考えていますが、発表件数により変更があることをあらかじめお断わりいたします。

各セッションの担当理事は
a) 一般テーマ:リスク評価・管理の方法と実際:小林定喜理事(放射線医学研究所)
b) 事前対応型リスク管理:　北畠佳房理事(筑波大社会工学系)
c) リスクアセスメントと基礎科学の接点:林　裕造理事(国立衛生試験所)
d) 製造物責任リスクの分散:　朝見行弘理事(福岡大法学部)

(5) 発表申込み締切:8月末日
(6) 発表を希望される方は、最終頁に添付の申込み用紙に、氏名、ご希望の発表のセッション名、研究の概要(400字程度)等をご記入の上、事務局までお送り下さい。

〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1 筑波大学　社会工学系
池田研究室気付　日本リスク研究学会事務局

なお、研究発表のプログラム上の制約から、御希望にそえないこともあることをあらかじめお断わりすると共に、発表の採択については実行委員会に一任下さい。

(7) 発表原稿締切:10月30日(金)必着(規定の書式を使用)
(8) 講演要旨集:発表原稿は講演要旨集として発行しますので、必ずワープロにて原稿を作成していただきます様お願いいたします。原稿は 1行48字で42行、 1頁あたり2016字にて 4-6 頁で A4 用紙に仕上げていただければ、そのままオフセット印刷を効率よく進めることができますので、御協力のほどをお願い申し上げます。活字 10.5 ポイント(5号級)、文字ピッチ 3/20 インチ(3.6 mm)、行間ピッチ 1/4 インチ(6.0 mm)を基本にいたしますが、原稿を約 80% に縮小することを留意して図表などを作成してくださるようお願いします。
(9) 参加費:3、000円(予定)(講演要旨集、会場費を含む)

2。年次総会報告と第２期役員一覧

年次総会は第３回春季講演シンポジュウムと併せて下記の要領で開催されました。総会は３０名の出席と１０１名の委任状を得て成立し（定足数１１５名；６月２日現在の会員数２２９名の過半数）、下記の４件の議案（１９８９年度決算、１９９０年度事業計画、１９９０年度予算、第２期役員選出）の審議を行い、全議案ともに成立しました。

承認されました各議案、ならびに、第５回理事会で追認された新会員を含めた学会の会員状況は以下の通りです。

日時： 6月2日（土）午後１時― １時４５分
場所：東京大学工学部８号館都市工学科８２番教室（講演会と同一会場）
議事：(1) 会長（末石冨太郎）挨拶
(2) 審議　議案１：１９８９年度決算
議案２：１９９０年度事業計画
議案３：１９９０年度予算
議案４： 第２期役員選出
(3) 新会長（横山栄二）挨拶

議案１　１９８９年度決算案（1989年4月1日－1990年3月31日）

（１）　収入の部

科　目	予算		決算	増減
1.　会費収入	**945,000**		**944,500**	**-500**
正会員(170)	680,000	(176)	697,000	
準会員 (10)	25,000	(3)	7,500	
賛助会員(8)	240,000	(8)	240,000	
2.　事業収入	**250,000**		**246,500**	**-3,500**
研究発表会参加費	250,000		246,500	
（要旨集代含）		（会員	79x2500）	
		（一般	14x3500）	
3.　その他の収入	**0**		**214,000**	**+214,000**
	（学会誌・要旨集売却）		160,000	
	（その他）		54,000	
4.　前年度繰越	**219,350**		**219,350**	
学会誌発行準備費	(219,350)			
収入合計	**1,414,350**		**1,624,350**	**+210,000**

（２）　支出の部

科　目	予算	決算	増減
1. 学会運営事務費	**280,000**	**254,728**	**-25,272**
印刷費	30,000	39,270	
通信費	50,000	54,643	
事務補助謝金	120,000	120,000	
(12x3日x5,000円)			
消耗品	80,000	30,815	
分担金	0	10,000	
2. 機関誌	**670,000**	**854,748**	**+184,748**
News letter印刷	80,000	64,870	
通信費・送料	90,000	120,378	
学会誌印刷	500,000	669,500	
3. 事業費	**390,000**	**445,489**	**+55,489**
研究発表会			
要旨集印刷	100,000	88,065	
会場費	50,000	67,512	
人件費	40,000	21,000	
講師旅費	50,000	52,000	
その他	0	15,712	
総会・講演会			
講師旅費・謝金	120,000	130,200	
人件費	30,000	30,000	
会場費	0	41,000	
4. 予備費	**74,350**	**69,385**	**-5,035**
	（理事会・会合費）	59,586	
	（次期繰越金）	9,799	
支出合計	1,414,350	1,624,350	+210,000

議案２　１９９０年度事業計画

(1) 研究発表会またはシンポジウムの開催について
　1.　第３回研究発表会を次の通り開催する。
　　日時：1990 年11月30日,12 月1日
　　場所：国立公衆衛生院（東京都港区芝白金台、山の手線目黒駅下車）
　　特別テーマ：製造物責任、事前対応型リスク管理、科学とリスク分析の接点
　2.　第４回春季講演シンポジュムの開催
　　日時：１９９１年６月頃の予定
(2) 学会誌、ニュースレターの刊行について
　1.　研究発表会、講演会（シンポジューム）の成果を中心に学会誌を年１回発行。
　2.　「ニュースレター」を会員の交流と研究紹介を兼ねて年４回程度発行
(3) 運営に関する会議について
　1. 第４回定例総会を１９９１年６月に開催する。
　2. 必要に応じて理事会を開催する。
(4) その他
　1. 個人会員、賛助会員の拡大につとめる。
　2. ＳＲＡ（親学会）との交流に努めると共に、国内関連学協会との協力を深る。

議案３　１９９０年度予算案（1990年4月1日－1991年3月31日）

（１）　収入の部

科　目	予算	前年度	増減
1.　会費収入	1,345,000	945,000	+400,000
正会員　(240)	960,000	680,000	
準会員　(10)	25,000	9,000	
賛助会員 (12)	360,000	300,000	
2.　事業収入	300,000	250,000	+50,000
研究発表会参加費 2,000円x150部	300,000		
3.　その他の収入	150,000 (学会誌売却)		+150,000
4.　前年度繰越	9,799	219,350	−209,551
収入合計	1、804、799	1,414,350	+390,449

（２）　支出の部

科　目	予算	前年度	増減
1. 学会運営事務費	**390,000**	**280,000**	**+110,000**
複写費	40,000	30,000	
通信費	70,000	50,000	
事務補助謝金	180,000	120,000	
（3日x12月x5,000円）			
消耗品	80,000	80,000	
分担金	20、000	0	
2. 機関誌	**830,000**	**670,000**	**+210,000**
News letter発行	70,000	80,000	
通信費・送料	140,000	90,000	
学会誌発行	670,000	600,000	
3. 事業費	**510,000**	**390,000**	**+120,000**
研究発表会			
印刷代	100,000	100,000	
会場費	10,000	50,000	
人件費	40,000	40,000	
講師旅費	100,000	50,000	
総会・講演会			
講師旅費・謝金	180,000	120,000	
人件費	50,000	30,000	
会合費	30,000	0	
4. 予備費	**24,799**	**74,350**	**-49,551**
支出合計	1,804,799	1414,350	+390,449

議案４　　第２期役員（1990.4.1 - 1992.3.31）

会長：　横山　栄二　　（前会長：国立公衆衛生院次長）
副会長：木下　冨雄　　（新任：　京都大学教養部教授）

理事：　朝見　行弘　　（再任：福岡大学法学部助教授）
　　天野　博正　　（前会計監事：(財)電力中央研究所環境総合推進室長）
　　池田　正之　　（再任：京都大学医学部教授）
　　池田　三郎　　（再任：筑波大学社会工学系教授）
　　石崎　勝義　　（再任：建設省土木研究所次長）
　　加藤　和彦　　（新任：安田火災海上保険(株)地球環境リスク・マネージメント室長）
　　北畠　佳房　　（再任：筑波大学社会工学系助教授）
　　草間　朋子　　（新任：東京大学医学部助教授）
　　黒田　勝彦　　（再任：京都大学工学部交通土木工学科助教授）
　　小林　定喜　　（再任：科学技術庁放射線医学研究所総括安全解析研究官）
　　酒井　泰弘　　（新任：筑波大学社会科学系教授）
　　末石　冨太郎　（前会長：大阪大学環境工学科教授）
　　鈴木　　治　　（新任：東京海上火災保険(株)安全サービス部長）
　　田中　　勝　　（再任：国立公衆衛生院衛生工学部室長）
　　田村　坦之　　（新任：大阪大学精密工学科教授）
　　中村　正久　　（再任：滋賀県琵琶湖研究所主任研究員）
　　林　　裕造　　（再任：国立衛生試験所病理部・部長）
　　広瀬　弘忠　　（再任：東京女子大学文理学部教授）
　　盛岡　　通　　（再任：大阪大学工学部環境工学科助教授）

会計監事　：内山　巌雄　　（新任：国立公衆衛生院労働衛生学部・部長）

会員状況（1990年6月2日現在）

	継続		新規入会	退会	合計
正会員	189（170）		27（20）	2（1）	214（189）
準会員	5（4）		0（1）	0（0）	5（5）
賛助会員	6	日本ＮＵＳ（株） チバガイギ（株） ＪＲ東海（株） 電力中研（財） 動燃事業団（東海） 東京海上火災（株）	4 安田火災海上（株） 大東京火災海上保険 （株）日本総合研究所 東京電力（株）		10（6）
合計	200		31	2	229（200）

3。第5回理事会報告

日時：　1990年 6月 2日（土）11:00 - 12:30
場所：　東京大学工学部都市工学科3F会議室
出席者：末石会長、横山副会長、池田(正)、池田(三)、石崎、小林、各理事
（他委任状　7名）、オブザーバ：加藤、草間、酒井、鈴木、市川　各氏

理事会の議事録の概要

1）前回議事録が確認された。

2）新会員の承認

資料1にもとづいて池田事務担当理事から説明があり、正会員16名および 4社の賛助会員の入会が正式に追認された。

3）総会提出議案の審議

(1) 1989年度決算報告（議案1）

会計監事天野博正氏の監査を受けて1989年度決算の承認をえたこと、また、　当初予算と異なったところは学会誌発行に関することで、印刷送料でかなりの赤字になったが、各理事の学会誌売却等の努力により赤字を埋める事が出来たという報告が事務局よりあった。この件に関連して横山副会長より、事務局の運営で肩代りしているものがあるのではないか、また事務局の方へ財政面で無理がいかないようにしてほしいという要請があった。これまでのところ、コピー代、アルバイト代の肩代りという程度で、大幅な負担になっていないということであるが、将来、学会誌が年2回以上の発行になると事務局の運営と編集業務で負担が大変になるということであった。

末石会長より、事務局は将来持回りとすることが望ましく、その準備をする必要があることが述べられた。会費は8～9割が支払っているとの報告があった。事務補助を増やしたり、講師旅費等の支払いを正規に行なう事などに関しても会員増により財政規模の拡大をはかる必要があるとの意見がだされた。。

(2) 1990年度事業計画（議案2）

昨年度と同じレベルの学会事業を行なう案が承認された。

(3) 1990年度予算案（議案3）

収入の部：案として正会員数 240名、賛助会員数12名として計上している。

約2割の各々の会員の増加を見込んでいる。その他大きな変化はない。

(4) 第2期役員案（議案4）

学際的な学会なので様々な分野の人から会長、副会長を選びたいので、次期会長として横山副会長（現）が、社会心理学分野の木下富雄教授（京都大学、教養部）を次期副会長に推薦する事が承認された。また、前理事は原則としてもう1期継続する案が（ただし、東京大学の松原氏はご都合により辞退された）を承認した。

4）第3回研究発表会について

朝見、北畠、林の各理事から提案された特別セッションの企画原案が了承され　た。また、特別講演は全体プログラムの編成を見ながら適当な人を横山副会長に委任することが決められた。

5）学会誌（第2号）について

研究論文3編の査読プロセスが若干遅れているが、発行は9月中旬または下旬になる

ことが編集委員会より報告された。

6）第2期役員の分担

以下のように役員の分担が総会での新役員の承認を前提として了承された。

1）事務局　総務（会員、財政）：横山、内山（国公院）、鈴木（東京海上）
事務局：池田（筑波大）

2）企画　第3回研究発表会：朝見（福岡大）、北畠（筑波大）、林（国衛試）
第4回講演会（来年6月）（エネルギーリスク関連のテーマ（仮））
：天野（電中研）、草間（東大）
第4回研究発表会（来年12月）（関西で行う可能性を探る）
：木下（京大）、黒田（京大）、田村（阪大）、盛岡（阪大）

3）編集：池田、酒井（筑波大）、広瀬（東京女大）、田中（国公院）

4）渉外（他の団体から依頼を受け、専門分科会など研究プロジェクトを組織する方向を探る）：末石（阪大）、石崎（土木研）、加藤（安田火災）、小林（放医研）、中村（琵琶湖研）、池田（京大）

4。春季講演会およびパネル討論会報告

年次総会と併せて講演会とパネル討論会「災害防止とリスク研究」問題を中心に多彩な講師をお招きして開催しました。本年度（1990）から国際防災の10年（IDNDR）が始まり、世界が自然災害の防止、軽減に集中的に取り組むことになっています。また、地球温暖化にともなう自然災害の増加についても世界各地で大きな話題となっています。日本におけるリスク研究はまだ緒についたばかりですが、リスク概念、リスク分析による視点が自然災害（または人災、技術災害）の防止と軽減にどのように貢献できるのか、第一線で活躍されている関係者にお集まりいただき、その可能性と限界を議論していただきました。

当日は、約60名の会員と約40余名の熱心な会員外の参加を得ましてフロアーからも活発な討論を行いました。なお、講演会とパネル討論の詳しい内容については、学会誌（第2号）に企画を担当された石崎勝彦、吉本俊裕両氏（建設省土木研究所）の編集により紹介される事になっています。

また、講演会・パネル討論会の準備と運営・会場設営に関しまして、東京大学工学部都市工学科市川新氏と市川研究室の皆様の多大なご援助を頂きました。併せてお礼を申し上げます。なお、当日の講演者、討論者は下記の方々でした。

特別講演：地球温暖化と自然災害

講演者：木下武雄（国立防災科学センター、第一研究部長）

パネル討論：自然災害の防止、軽減にリスク的視点はいかに貢献できるか

司会者　：　片山恒夫（東京大学生産技術研究所、教授；地震災害とリスク）

討論者　：　石崎勝義（建設省土木研究所次長；災害の歴史とリスク）
岡田憲夫（鳥取大学工学部、教授；リスク分析手法）
梶　秀樹（筑波大学社会工学系、教授；都市災害とリスク）
吉村秀実（NHK、解説委員；自然災害とマスコミ）
木下武雄（国立防災科学センター）

5。 リスク研究（日本リスク研究学会誌）第２巻の内容

学会誌第２巻は９月中には発行する予定で編集しています。

日本リスク研究学会誌

第２巻　第１号　（1990年 9月）

目　次

【巻頭論文】
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　横山栄二（国立公衆衛生院）
【学会報告】
第２回研究発表会（解説とプログラム）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
【解説論文】
疫学分析におけるリスク　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・清水弘之（岐阜大）
都市防災からみたリスク評価と対策　・・・・・・・・・・・・亀田弘行（京都大）・・・
製造物責任リスクとその対策　・・・・・・・・・　荒井　克（安田火災海上）
【寄稿論文】
高血圧症疫学におけるリスク評価・・・・・・・・・・・・　田中平三（東京医科歯科大）
職業がんにおけるリスク評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大前和幸（慶応大）・・・
沿道大気汚染とその健康影響評価　・・・・・・・・・・・・・小野雅司・田村憲治・村上正孝（環境科学研究所）
工学とリスクマネージメント：例題としての災害リスクを考慮した土地利用計画　・・
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・黒田勝彦（京都大）・難波義郎（近畿大）
リスク問題への学際的接近からの研究紹介　・・・・・・・・北畠佳房（筑波大）
他一編（予定）
【研究論文】
３編（予定：現在校閲中：完了次第掲載予定）
【研究短信】
リスクを比較する　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・甲斐倫明（東京大）
日本における食品関連発ガ癌物質の危険度評価と法規制　・佐藤茂秋（富山衛生研）
化学物質の安全性評価における国際協力　・・・・・・・・・・関沢　純（国立衛生試験所）
放射性廃棄物地中処分のリスク評価の不確実性・・・・・藤川陽子（京大原子炉実験所）
【シンポジウム】
春季講演シンポジウム：自然災害の防止とリスク研究　・・石崎勝義（土木研究所）編

事務局だより・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日本リスク研究学会規約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
投稿規定及び原稿作成要領・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
日本リスク研究学会会員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

6。 事務局だより

6.1 リスク関連の学会・会議のお知らせ

化学物質安全性評価の国際協力に関する講演会のご案内

当所はＷＨＯ（世界保健機関）の環境保健部門のひとつである「国際化学物質安全性計画（ＩＰＣＳ）」の協力機関として「環境保健クライテリアシリーズ」、「国際化学物質安全性カード」の作成などの活動をしておりますが、今回ＩＰＣＳの本部の責任者であるメルシェ博士を日本に招へいすることになりました。

これを機会にＩＰＣＳの現状と将来の展望について、下記のような講演会を企画いたしました。講演後には情報交換のための懇親会も予定しておりますので、是非ご出席くださいますようご案内いたします。

記

1　主催　　国立衛生試験所化学物質情報部

2　日時　　１９９０年１１月１５日（木）
　　午後３時－５時　　講演会
　　午後５時半－７時　　懇親会

3　場所　　ＫＫＲ　東京竹橋会館　１１階　孔雀の間
　　千代田区大手町１－４－１
　　ＴＥＬ０３（２８７）２９２１

4　プログラム
　講演会
　（１）　ＩＰＣＳ（国際化学物質安全性計画）の活動と展望
　　ＩＰＣＳマネージャー　Ｍ．メルシェ博士
　　（通訳付き）
　（２）　化学物質安全性評価と国際協力　（仮題）
　　国立衛生試験所安全性生物試験研究センター
　　病理部長　　林　裕造博士
　懇親会　　（同じ場所で行います。）

5　申込み　　会場の席に限りがございますので下記に葉書でもって参加をお知らせ下さい。　詳細のご案内を後ほどお送りします。

　連絡先　　〒＝１５８　東京都世田谷区上用賀１－１８－１
　　国立衛生試験所　化学物質情報部　　関沢　純
　　ＴＥＬ　０３（７００）１１４１　内線２９５
　　ＦＡＸ　０３（７０７）６９５０

1990 SRA Annual Meeting to Have 80+ Sessions

"It has been overwhelming!" says Annual Meeting Committee Chairman Curtis C. Travis in describing the response to the Call for Papers for SRA's 1990 Annual Meeting. The meeting, which will be held October 7-10 at the Intercontinental Hotel in New Orleans, will feature more than 80 different sessions plus a half-day short course. Approximately one-half of the sessions will be special sessions, whose titles and organizers are listed below:

Setting Sediment Quality Standards for Ecological Risk Assessment
Charles Menzie, Chelmsford, MA

Uncertainty and Decision Analysis for Ecological Risk
Rufus Morison, Alexandria, VA

Maximum Exposed Individual
Paul Price, American Petroleum Institute, Washington, DC

Global Climate Issues
Lester Lave, Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA

Medical Waste
Maureen Lichtveld, Agency for Toxic Substances and Disease Registry, Atlanta, GA

Medical Decision Making
Cheryl Travis, University of Tennessee, Knoxville, TN

Chemical Mixtures
Richard C. Hertzberg, U.S. Environmental Protection Agency, Cincinnati, OH

Risk Assessment of Environmental Tobacco Smoke
Maxwell Layard, Alameda, CA

Setting Drinking Water Standards
Edward V. Ohanian, U.S. Environmental Protection Agency, Washington, DC

Health Effects of Global Warming
Clay Easterly, Oak Ridge National Laboratory, Oak Ridge, TN

Multimedia Modeling
Thomas McKone, Lawrence Livermore National Laboratory, Livermore, CA

Chaos and Risk Analysis
Jerry Chandler, National Institutes of Health, Bethesda, MD

Halogenated Solvents
Bruce Allen, Clement Associates, Ruston, LA

Sensitive Subpopulations
Lauren Zeise, Department of Health and Human Services, Berkeley, CA

Mixed Waste
Fritz Seiler, International Technology, Albuquerque, NM

Health Effects of Dioxin
William F. Greenlee, Chemical Industry Institute of Toxicology, Research Triangle Park, NC

Biomarkers of Inhalation Exposure
Robert Orth, Monsanto Corporation, St. Louis, MO

Risks Associated with Field Applications of Genetically Engineered Microorganisms (GEMS)
Holly Hattemer-Frey, Advanced Sciences, Inc., Oak Ridge, TN

Risk Communication Roundtable
Ann Fisher, EPA, Washington, DC

Current Experience in Environmental Risk Analysis Related to Remedial Actions at DOE Facilities
Steve Bartell, Oak Ridge National Laboratory, Oak Ridge, TN

Organizational Factors in Risk
Lee Clarke, Rutgers University, New Brunswick, NJ

Community Involvement
David Conn, Blacksburg, VA

Life Support Systems
Hatice Cullingford, NASA, Houston, TX

General Quantitative Noncancer Risk Assessment: State of the Art
Michael L. Dourson, EPA, Washington, DC

Ethics
Mary English, Univeristy of Tennessee, Knoxville, TN

Accident Management
Mario H. Fontana, Tenera Corporation, Knoxville, TN

New Directions in Risk Perception
William Freudenberg, University of Wisconsin, Madison, WI

Innovative Methods in Toxicology
Michael Gallo, UMDNJ, Pescattaway, NJ

Theory and Approaches to Ecological Risk Analysis
Steve Hildebrand, Oak Ridge National Laboratory, Oak Ridge, TN

Prospects for Upgrading Emergency Planning at Operating Nuclear Power Plants: TMI As a Test Case
R. Kasperson, Clark University, Worcester, MA

Siting of Hazardous Facilities
Howard Kunreuther, University of Pennsylvania, Philadelphia, PA

Major Uncertainties in Environmental Exposure Assessment
Ross MacDonald, Shell Oil Company, Houston, TX

Quantitative Risk Assessment of Non-Cancer Endpoints
Don Mattison, University of Arkansas, Little Rock, AR

SARA Title 3
Vlasta Molak, Bio-Technology Forum, Inc., Cincinnati, OH

International Role of Risk Analysis
Vlasta Molak, Bio-Technology Forum, Inc., Cincinnati, OH

Effluent Fees to Reduce Waste
Alan Pulsipher, Louisiana State University, Baton Rouge, LA

Improving Risk Characterization
Joe Rodricks, ENVIRON, Arlington, VA

Biomarkers of Environmental and Ecological Contamination
Lee Shugart, Oak Ridge National Laboratory, Oak Ridge, TN

Clean Air
Wilbur A. Steger, Consad Research Corporation, Pittsburgh, PA

Fungicides in Agriculture
James Wilson, Monsanto, St. Louis, MO

Safety at Chemical Plants
Gary Verholek, Tenera Corporation, Knoxville, TN

In an attempt to upgrade the proceedings of the SRA Annual Meeting, the Council is inviting presenters at the 1990 meeting to submit their papers to the Society's journal, *Risk Analysis*. Papers will not be published in a separate proceedings volume for the meeting.

Note: Plenum Publishers reports that the proceedings for the 1986 SRA meeting held in Boston will be available in late July. Camera-ready pages for the 1989 meeting should be submitted to Plenum by August.

News from SRA-Japan

SRA-Japan's former vice-president Eiji Yokoyama, Deputy Director of the Institute of Public Health, will begin his two-year term as president on June 2, when the section will hold its third annual meeting and elect other new officers. The outgoing president, the first person to have held the office, is Tomitaro Sueishi of Osaka University, to whom the section expresses its gratitude.

SRA-Japan has announced that its Third Annual Conference will be held at the Institute of Public Health (Shirogane-dai, Tokyo) on Friday, November 30 and Saturday, December 1, from 10:00 a.m. to 5:00 p.m. each day. There will be three special sessions: "Product Liability and Risk Management: Concepts and Legislation"; "Anticipatory Approach to Environmental Resource Management"; and, "Interface Between Science and Risk Analysis: Test and Diagnostic Issues." General sessions on risk analysis and risk management will also be included.

Over five sessions with 10 invited and more than 12 applied papers and 200 participants are expected. Conference proceedings will be pre-printed and handed out at the meeting. Serving on the program committee are Y. Asami, Law School, University of Fukuoka; Y. Kitabatake, Institute of Socio-Economic Planning, University of Tsukuba; Y. Hayashi, National Institute of Hygiene; and S. Kobayashi, National Institute of Radiological Science. For more information, please contact the SRA-Japan secretary, Saburo Ikeda, Institute of Socio-Economic Planning, University of Tsukuba, Sakura, Ibaraki 305, Japan (Phone 0298-53-5380; FAX 0298-55-3849).

Third Annual Conference
SRA-Japan
November 30—December 1
Institute of Public Health
Tokyo

News from SRA-Europe

SRA-Europe chairman Pieter Jan Stallen has provided additional information on the environmental conference to be held in Kiev, United Soviet Socialist Republic [U.S.S.R.], on November 22-23. SRA-Europe and the Committee for Systems Analysis of the U.S.S.R. Academy of Sciences (Working Group for Risk Analysis and Safety) have coorganized the conference titled "Environmental Risk Management—The European Case." It will be held under the aegis of the U.S.S.R. State Committee for Nature Protection, the Council of Ministers of the Ukranian Republic, the World Health Organization (WHO) Regional Office for Europe, the Secretariat of the United Nations Economic Commission for Europe, and the International Institute for Applied Systems Analysis.

Conference on Environmental Risk Management: The European Case
November 22-23
Kiev, USSR

The main objectives of the Kiev conference are: 1) to identify and characterize the main environmental risks present in the activities of today's human society; 2) to discuss the state of the art in environmental risk modeling and analysis, with emphasis on the most effective technologies and management approaches for reducing these risks; 3) to consider the prioritization of environmental problems, and to exchange views on the various approaches to decision-making on environmental improvement strategies; 4) to discuss and display the range of methods and techniques used for modeling and simulating environmental risks; and 5) to contribute to the development of greater international care for the environment. The management of environmental problems in industry and agriculture will be discussed from the perspective of the engineering sciences, the health and environmental sciences, and the decision-theory sciences. There will also be an opportunity to participate in a poster session and/or demonstration of computer software.

Many Eastern and Western European professionals are expected to be interested in attending the conference; but, for practical reasons, the number of participants will be limited. Therefore, the Organizing Committee reserves the sole right to accept or decline applications. Applications must be received by either of the conference secretariats on July 1. For more information or to request an application, please contact the secretariat for Western Europe,

P.J.M. Stallen
IMSA, Institute for Environment and Systems Analysis
Emmastraat 16, 1075 HT
Amsterdam, The Netherlands
Phone +31.20.6620696
FAX +31.20.751576;

or for Eastern Europe,

R. Golubev
V.M. Glushkov Institute of Cybernetics
Glushkov Avenue 20
Kiev 252207, USSR
Phone +095.7.044.131272
FAX +095.7.044.2667418.

Conference speakers will be requested to make available full written papers of their presentations on or before the first day of the conference. Those papers which are submitted will be considered for publication in the Society's journal, *Risk Analysis*.

Journal Contents

The tables of contents of Vol. 10, No. 2 and Vol. 10, No. 3 of the SRA journal *Risk Analysis* are reprinted below.

Vol. 10, No. 2

EDITORIALS

Joseph Fiksel, *Risk Analysis in the 1990's*

D. Warner North, *Risk Analysis: Where Have We Been? Where Are We Going?*

Kenneth T. Bogen, *Of Apples, Alcohol, and Unacceptable Risk*

H. Felix Kloman, *Risk Management Agonistes*

LETTERS TO THE EDITOR

Robert L. Sielken, Jr., *Driving Cancer Dose-Response Modeling with Data, Not Assumptions*

Colin Park, *Letter to the Editor*

John Bailar, *Letter to the Editor*

ARTICLES

Gordon Hester, M. Granger Morgan, Indira Nair, and Keith Florig, *Small Group Studies of Regulatory Decision Making for Power-Frequency Electric and Magnetic Fields*

Daniel G. Brooks, *Using Related Samples in Assessing Conformance to Safety Goals: A Nuclear Reactor Safety Application*

Leonard Evans, Michael C. Frick, and Richard C. Schwing, *Is It Safer to Fly or Drive?*

Hans Bohnenblust and Serge Pretre, *Appraisal of Individual Radiation Risk in the Context of Probabilistic Exposures*

William S. Pease, Lauren Zeise, and Alex Kelter, *Risk Assessment for Carcinogens Under California's Proposition 65*

Sylvia A. Edgerton *et al.*, *Priority Topics in the Study of Environmental Risk in Developing Countries*

James J. Chen, David W. Gaylor, and Ralph L. Kodell, *Estimation of the Joint Risk from Multiple-Compound Exposure Based on Single-Compound Experiments*

Adam M. Finkel, *A Simple Formula for Calculating the "Mass Density" of a Lognormally-Distributed Characteristic: Applications to Risk Analysis*

Dale Hattis, *Pharmacokinetic Principles for Dose Rate Extrapolation of Carcinogenic Risk from Genetically Active Agents*

Curtis C. Travis, *Tissue Dosimetry for Reactive Metabolites*

Suresh Moolgavkar and George Luebeck, *Two-Event Model for Carcinogenesis: Biological, Mathematical and Statistical Considerations*

SOFTWARE REVIEWS

David E. Burmaster and Edye C. Udell, *Crystal Ball Rev. 1.0.2*

SOFTWARE LISTINGS

Kim Bradley, *Environmental Database on Compact Discs*

BOOK REVIEWS

Robin White

Vol. 10, No. 3

GUEST EDITORIALS

M. Granger Morgan and Lester Lave, *Ethical Considerations in Risk Communication Practice*

Fred D. Hoerger, *Presentation of Risk Assessment*

LETTERS TO THE EDITOR

Rosalind A. Volpe, *Lead in the Environment: Coming to Grips with Advocacy versus Scientific Integrity in Risk Assessment*

Fritz A. Seiler, *On the Use of Risk Assessment in Project Management*

ARTICLES

James K. Hammitt, *Risk Perceptions and Food Choice: An Exploratory Analysis of Organic vs. Conventional Produce Buyers*

Emily Roth, Granger Morgan, Baruch Fischhoff, Lester Lave, and Ann Bostrom, *What Do We Know About Making Risk Comparisons?*

Paul Slovic, Nancy Kraus, and Vincent T. Covello, *What Should We Know About Making Risk Comparisons?*

Michael K. Lindell and Ronald W. Perry, *Effects of the Chernobyl Accident on Public Perceptions of Nuclear Plant Accident Risks*

Ronald L. Iman and Stephen C. Hora, *A Robust Measure of Uncertainty Importance for Use in Fault Tree System Analysis*

Thomas Mckone, *Dermal Uptake of Chemicals from a Soil Matrix*

Bart D. Ostro, *Associations Between Morbidity and Alternative Measures of Particulate Matter*

Linda Tollefson, Ronald J. Lorentzen, Robert Brown, and Janet Springer, *Comparison of the Cancer Risk of Methylene Chloride Predicted from Animal Bioassay Data with the Epidemiologic Evidence*

Jean Chesson, Jerry D. Rench, Bradley D. Schultz, and Karen L. Milne, *Interpretation of Airborne Asbestos Measurements*

Dale Hattis, Paul White, Laura Marmorstein, and Paul Koch, *Uncertainties in Pharmacokinetic Modeling for Perchloroethylene*

Daniel Wartenberg and Michael A. Gallo, *The Fallacy of Ranking Possible Carcinogen Hazards Using the TD50*

SOFTWARE REVIEWS

Paul Moskowitz

SOFTWARE LISTINGS

Paul Moskowitz

BOOK REVIEWS

Robin White

6.3　その他

本年度の年会費の大部分は学会誌の発行に予定しています。当学会は未だ財政基盤は弱体ですので早期の会費の早期納入をお願いします。すでに大多数の会員の方々から納入していただいていますが、未納の会員のかたは送付済みの郵便振替用紙にて、学会費費：

正会員（国際、国内）	４、０００円
準会員（学生）、	２、５００円
賛助会員	３０、０００円

を下記の振込先迄、ご送金下さいますようお願いいたします。なお、通信経費の節約のため学会の領収書は発行しませんが、ご必要な方はお知らせ下さい。

振込先：郵便振替番号：　宇都宮　３－１１９６４
日本リスク研究学会
３０５　つくば市天王台1-1-1
筑波大学社会工学系　池田研究室気付

７。新会員紹介（１９９０年５月－１９９０年７月）

梁　視訓	大阪大学経済学部
鈴木　正敏	（株）日本総合研究所総合研究本部　経営戦略研究部
仲谷　一郎	建設省建築研究所　建築試験室
尾本　彰	東京電力（株）　原子力業務部
相崎　裕恒	東京大学医学部　放射線健康管理学教室
岡田　憲夫	鳥取大学工学部　社会開発システム科
佐々木昭彦	国立公衆衛生院　生理衛生学部
中西　準子	東京大学　環境安全センター
新谷　康之	東京都下水道局
矢代　晴実	早稲田大学　理工学研究所
岡　敏弘	滋賀県琵琶湖研究所
松林　哲夫	昭和薬科大学　物理学研究室
関根　和喜	横浜国立大学工学部　物質工学科

日本リスク研究学会第３回研究発表会　講演発表申し込み書

発　表 題　目		希望セッション a,　b,　c,　d
氏名（ふりがな） （発表者及び連名者）	各所属	会員種別（正会員、 賛助会員、準会員）
1. 2. 3. 4. 5. 発表者には○印		
連絡者 氏　名 住　所		
発表要旨：		